

2024年度 労働衛生セミナー

テーマ：安全・安心な職場づくりを！増加する転倒災害を防ごう
－企業での取り組み事例や対策ポイントをご紹介します－

趣旨

少子高齢化や定年の延長等に伴い、労働者の高齢化が進み 2023 年では雇用者のうち、60 歳以上の高齢労働者が占める割合は 18.7%となっている。一方、休業 4 日以上の子死傷者数のうち、60 歳以上が占める割合は 29.3%と高く、これは近年増加傾向である。また、労働災害の発生状況では転倒によるものが最多であり、休業 4 日以上の子労働災害のうち、4 分の 1 以上を占めている。特に女性の場合、60 歳以上の転倒災害発生率は 20 代の約 15 倍と発生率が高い。加えて、中高年齢女性になると骨密度の低下により骨折しやすいため、休業日数が 1 か月を超える重篤な災害にもなり得る。このような状況から、2023 年 4 月より開始となった第 14 次労働災害防止計画でも「労働者（中高年齢の女性を中心に）の作業行動に起因する労働災害防止対策の推進」が重点対策の一つとされている。

転倒災害防止対策に取り組むことは業種や規模に関わらず、全ての事業場にとって課題であるが、実際に何から取り組めば良いのか難しいとの声もあり、未だに具体的な転倒災害防止対策が浸透していないのが現状である。対策を始めるにはまず原因の分析が必要であるが、転倒に至る因子には外的因子として周辺の環境状態（段差、床面の濡れ、床面への突出物、照度不足等）、内的因子として転倒者の心身状態（疾患、薬物影響、筋力低下等）、行動様式（急いで走る、考え事をしながら歩く等）のような多因子があげられ、実際にはこれらが複雑に影響することにより転倒を招くと言われている。

今回のセミナーでは、転倒因子ごとに原因を解説し事業場で取り組める対策のポイント、北海道ならではの冬場の環境における適切な対策も含めてお伝えする。さらに、事業場として実際に転倒災害防止に取り組んだ事例についても産業医から紹介する。

昨今の雇用情勢や労災事故の現状を考えると、転倒災害防止対策は労働者の安全の観点はもちろんのこと、事業場の労働力確保の観点からも今後益々社会的に重要な課題になると思われる。本セミナーを通じて、転倒災害について広く事業場に理解され、対策が進むことを期待している。本セミナーが、安全・安心な職場環境に繋がり、高齢労働者や女性が活躍していける社会を実現する一助となれば幸いである。